

月例会メッセージ 2003年4、5、7月

旧約聖書の祭りとキリスト

メッセージ：中川健一

ハリスト・タイム・ミニストリーズ

目 次

イントロダクション	1
I. 過越の祭り	2
II. 種なしパンの祭り	3
III. 初穂の祭り	4
IV. 7週の祭り	5
V. 中間の4ヶ月	6
VI. ラッパの祭り	7
VII. 賢罪の日	9
VIII. 仮庵の祭り	10

「旧約聖書の祭りとキリスト」

聖書箇所:レビ記 23:1~21

イントロダクション

1. 日本人と祭り

- (1) 生野八坂神社(7月15、16日、みこし通りのパレード)
- (2) 天神祭、祇園祭、三社祭
- (3) 非日常体験(宗教的なものから、イベントものまで)
- (4) 私にとっての祭り:イカ焼き、ヨーヨー釣り、金魚すくい、etc.
- (5) 起源や意味を理解しなくても情念に染み込んでいる。
- (6) 日本人クリスチャンは、日本の祭りとイスラエルの祭りから切り離された。

2. イスラエル人と祭り

- (1) 情念の世界でユダヤ人の心を想像する。
- (ILL) 今年は、ペサハは4月17日~23日(4月21日、日本ユダヤ教団)
- (2) レビ記23章の7つの主の例祭(時間順に並んでいる)
- (3) 春の例祭は4つ(50日の間にやってくる):メシヤの初臨
- (4) 中間期は約4ヶ月:今の時代

- (5) 秋の例祭は 3 つ（2 週間の間にやってくる）：メシヤの再臨
- (6) 3 つは巡礼祭（荒野、シロ、そしてエルサレムで祝われた）
- (7) 靈的祝福
- (8) メシヤ預言
- (9) 安息日の重要性：自由の民であることのしるし
(ILL) ユダヤ教のラビのコメント。最も重要な祭りとは安息日。

I. 過越の祭り

1. 最初の過越の祭り（出エジ 12：1～13：16）

- (1) この月が年の始まり。「アビブの月」、バビロン捕囚以降「ニサンの月」
- (2) イスラエル国家の誕生を記念する祭り
- (3) 10 日に、子羊かヤギのうちから傷のない 1 歳の雄を取り、14 日まで吟味。問題がなければ、夕暮れにほふり、その血を門柱とかもいに塗る。
- (4) その肉を焼いて食べる。種なしパン、苦菜
- (5) 腰の帯を引き締め、足に靴をはき、手に杖を持って食べる。
- (6) 血を塗ること、急いで食べることは、1 度限り。

2. それ以降の過越の祭り

- (1) 国家誕生の記念
- (2) 出エジプトの出来事への参加
 - (ILL) ハガダーの発展
- (3) 契約の民としての自己認識の確認

3. 預言的意味

- (1) バプテスマのヨハネの証言（ヨハ 1：29）
- (2) ニサンの月の 10 日（日）にエルサレム入場（棕櫚の聖日）
- (3) 14 日（木）まで監視
- (4) 15 日（金）の午前 9 時に十字架につけられる。
- (5) 最後の晚餐は過越の食事であった。
- (6) 聖餐式を通して、十字架の出来事を追体験する。

II. 種なしパンの祭り

1. 内容

- (1) 過越の祭りは 1 日で終わる。その翌日から 7 日間。
- (2) 新約時代になると、過越の祭りと同じ祭りのようになる（マタ 26：17）
- (3) 出エジプトの夜の出来事を思い出す。
- (4) 初日と最後の日が特別な日。いけにえを捧げ、労働を休む。

2. 預言的意味

- (1) 「パン種」：罪の象徴（1コリ5：7～8）
- (2) キリストが罪のない血を捧げたときにこの祭りは成就した。
- (3) 私たちの心からパン種を取り除く方法（1ヨハ1：9）

III. 初穂の祭り

1. 内容

- (1) 月日は指定されていない。
- (2) 過越の祭りの後に来る最初の安息日の翌日（週の初めの日、今の日曜日）
- (3) 荒野で祝うのは不可能。約束の地に入ってからの祭り
- (4) 収穫の初穂の束を祭司のところに持ってきて、祭司はそれを主に向かって振り動かした。
- (5) 大麦の初穂のこと。
- (6) 大麦の束とともに、全焼のいけにえ（1歳の雄の子羊）、穀物の捧げ物、注ぎの捧げ物（ぶどう酒）などが捧げられた。

2. 預言的意味

- (1) キリストの復活を予表している。
- (2) キリストは過越の祭りの日に十字架に付けられた（金曜日）。翌日は安息日（土曜日）。その翌日は週の初

めの日で、初穂の祭りの日（日曜日）。この日にキリストは復活した。

- (3) 3日目とか、3日3晩とかいうのは、このことである。
- (4) パウロの教え（1コリ15：20～23）キリストは眠った者の初穂として死者の中から甦った。アダムは死をもたらした。キリストは死者の復活をもたらした。復活には順番がある。

【例話】コロンブス：あの海の向こうには何かがある

- (5) オリーブ山のふもとにある墓地：キリストの再臨は近い

IV. 7週の祭り

1. 内容

- (1) ヘブル語で「シャブオット」、ギリシヤ語で「パンテコステ」
- (2) 初穂の祭りから50日後の日曜日（週の初めの日）
- (3) 10分の2エバ（4.4リットル）の小麦粉で2つの初穂のパンを焼く。
- (4) パンと、全焼のいにえ、穀物の捧げ物、注ぎの捧げ物を捧げた。
- (5) パン種を入れて焼いたパン。祭壇で焼かず、主に向かつて振り動かした後、祭司の取り分となった。
- (6) 3つの巡礼祭の一つ

2. 預言的意味

- (1) 教会の誕生を予表している。
- (2) 聖靈の降臨（使徒 2：1～4）
- (3) 救済史における新しい時代の到来

*聖靈の時代

父なる神が、御子イエスを通して、聖靈を送つてくださる時代

*教会時代

教会の存在は、旧約聖書に預言されていなかった。

奥義である

- (4) 教会の本質（エペ 2：11～16、3：6）

*2つのパンの意味

（パン種 — 罪 — を持つたユダヤ人と異邦人とが、キリストにあって罪聖められ、一つの人とされる。）

V. 中間の4ヶ月

1. 内容

- (1) 春の4つの例祭と、秋の3つの例祭の間の中間期（レビ 23：22）
- (2) 収穫の時、畠の隅まで刈り取らない。落穂を残しておく。社会的弱者（貧しい者、在留異国人）を救済するため。
- (3) 「わたしはあなたがたの神、主である」とは、この命

令が契約関係に基づくものであることを表わしている。

2. 預言的意味

- (1) キリストの初臨と再臨の間の時代（教会時代）を予表している。
- (2) キリストの再臨の前に、中間期として世界宣教の時代が与えられている。
- (3) ヨハネ4:35の意味

ここで語られている4ヶ月とは、春の収穫から秋の収穫までの期間のこと。この夏の期間でも、イエスは、「畑は色づいて、刈り入れるばかりになっている」とお語りになった。

【例話】臨死体験のこと

VI. ラッパの祭り

1. 内容

- (1) 第7月（ティシュリ）の第1日は「新月の日」。第7の月は安息月であり、その新月の日は特に重要な日と見なされた。
- (2) この日に、ラッパ（角笛）を吹き鳴らす。
- (3) 「聖なる会合」とは、特別ないけにえを捧げる日という意味。
- (4) この日には、どんな仕事も禁じられた。

- (5) この日には、火による捧げ物が主に捧げられた（捧げ物の具体的な解説は、民 28：11～15 と 29：1～6 に書かれている）。

2. 預言的意味

- (1) ラッパの祭りは、教会の携挙を予表している。
- (2) クリスチャンたちは、ラッパの音とともに天に引き上げられる。これが教会時代の終わりに起こる出来事である。
- (3) 1 テサロニケ 4：13～18
特に 16 節では、「主は号令と御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身点から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり…」とある。
- (4) 1 コリント 15：50～58 特に 51～52 節では、「終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです」とある。
- (5) 4 ヶ月の中間時代（世界宣教の時代）の後には、教会の携挙がやってくる。テサロニケのクリスチャンたちは、このことによって慰めを得た。

VII. 賦罪の日

1. 内容

- (1) 第7の月（ティシュリ）の10日。つまり、9日の日没から10日の日没まで。
- (2) この日には、特別な捧げ物が捧げられる（レビ16章）。
2頭のヤギ：アザゼルのため、主のため
- (3) 賦罪の日の捧げ物は、イスラエルの民全体の罪を贖うためのもの。賦罪の日の儀式は、毎年イスラエルの民を清め、また幕屋を清めた。聖なる神と特別な契約関係を再認識。
- (4) この日の特徴は、「身を戒める」ことにあった。つまり、「断食」をするということ。賦罪の日は、祝いの日ではなく、苦悶の日。
- (5) 賦罪の日は、ユダヤ人たちにとっては最も厳肅な日、神の前に悔い改める日。

【例話】

1973年の第4次中東戦争（ヨム・キプール戦争）

2. 預言的意味

- (1) 賦罪の日は、教会の携挙に続く大患難時代を予表している。
- (2) 大患難時代が来ると、イスラエルの民は肉体的にも靈的にも苦難を経験するようになる（ゼカ12:1~9）
- (3) 大患難時代の最後に、イスラエルの民の国家的救いが

実現する。

- (4) イスラエルの救いは、キリストの地上再臨のための前提条件である。
- (5) 賛罪の日の成就是、イスラエルの民の苦悶と、それに続く国家的救いの中にある（ゼカ 12:10～13、ホセ 6:1～3）

VIII. 仮庵の祭り

1. 内容

- (1) 巡礼祭の一つ。第 7 の月の 15 日が、仮庵の祭りに当たる。
- (2) 7 日間の祭りであるが、8 日目も加わり、この日にも労働してはならないと命じられた。
- (3) 祭りの期間、特別ないけにえが捧げられた（民 29:12～34 参照）。雄牛は合計 70 頭捧げられた。古くからラビたちは、その 70 頭は、ノアの子どもたちから派生した 70 人の異邦人の国々（創 10 章）を象徴していると解釈していた。
- (4) 祭りの期間、仮庵に住むようにと命じられている。仮庵を作るための材料は、美しい木の実、なつめやしの葉、茂り合った木の太枝、川縁の柳だった。今では「美しい木の実」としてシトロンと呼ばれる柑橘類が、「なつめやしの葉」としてルラブと呼ばれる植物が、「茂

り合った木の枝」としてミルトスが、「川縁の柳」としてアラバアと呼ばれる植物が使われている。

- (5) この祭りの目的は、荒野の旅を記念するため。今でもイスラエルの人たちは、この仮庵の祭りを祝っている。

2. 預言的意味

- (1) 仮庵の祭りは、メシア的王国（千年王国）を予表している。キリストの地上再臨の後、千年王国が地上に設立された時、仮庵の祭りは成就する。
- (2) そういう意味で、仮庵の祭りは喜びの祭り（ゼカ 14：16～19）。
- (3) 異邦人の国々も、エルサレムに上ってきてこの祭りを祝うようになる。
- (4) 主イエスもまた、この祭りを祝っている（ヨハ 7：1～10：21は、その間のイエスの活動を記したもの）。
- (5) 仮庵の祭りは、旧約聖書の預言のクライマックス

【MEMO】



無断複製・転載を禁じます

2003年